



館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 9 月 5 日 (木)

発行 館長 加藤 智 一

ヒガンバナ



台風に翻弄された 8 月が終わり、未だ暑い日が続きますが 9 月になってしまいました。9 月と言えやお彼岸、秋分の日そして中秋の名月なんてワードが頭に浮かびます。

ところで皆さんは、お彼岸ってどんな日だと認識されていますか？秋の彼岸の中日にあたる秋分日は、国民の祝日に関する法律で「祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ」日と定められています。ちなみに、春のお彼岸の中日に当たる春分の日は「自然をたたえ、生物をいつくしむ」日とされています。

彼岸は、悟りの世界。人が悩んだり苦しんだりする原因となっている煩惱がない世界。ご先祖様や故人がいる極楽浄土のことを彼岸は指しているのだから。それでは、お彼岸とは何日間あるのかご存じでしょうか。春でしたら春分の日、秋でしたら秋分の日の前後それぞれ 3 日間。計 7 日間になります。今年 9 月 22 日が秋分の日ですので、3 日前の 9 月 19 日が彼岸の入り、9 月 25 日が彼岸明けとなるわけです。ちなみに「中秋の名月」の中秋とは、旧暦の 8 月 15 日をさしますので、今年 2024 年は 9 月 17 日になります。2021 年から 2023 年は中秋に丁度満月をむかえましたが、2024 年は満月の一日前が中秋となります。

さて、話し変わって、彼岸に欠かせない印象的な花といったらやはり、「ヒガンバナ (曼殊沙華)」ですよね。秋の彼岸のころに突然花茎を伸ばし、鮮やかな紅色の花が開花します。葉っぱがないので、幼い頃は「なんだこれ。」と思ったものです。ちなみに葉は、秋の終わりに伸びてきて、翌年の初夏には枯れてしまいます。球根に強い毒を持ち、これを食べたら彼岸 (死) しかないということからその名が付いたとも。別名、葬式花、墓花、死人花、地獄花などと不吉な呼ばれ方をしますが、実際のところ、先に述べた毒性ゆえに、もぐら対策、ネズミ対策とし

て、水田の畔やお寺、墓地などに植えられることが多く、ヒガンバナにしてみれば不本意な呼ばれ方をされるようになったのだと思います。かの北原白秋も結構暗めな詩を書いています。

曼殊沙華

北原白秋 (詩) 山田耕筰 (曲)

ゴンシャンゴンシャン何処へゆく
 赤い御墓の曼殊沙華 曼殊沙華
 きょうも手折りに来たわいな
 きょうも手折りに来たわいな
 ゴンシャンゴンシャン何本か
 地は七本 血のように 血のように
 ちょうどあの児の年の数
 ちょうどあの児の年の数
 ゴンシャンゴンシャン気をつけな
 ひとつ摘んでも日は真昼 日は真昼
 ひとつあとからまたひらく
 ゴンシャンゴンシャン何故泣くろ
 何時まで取っても 曼殊沙華 曼殊沙華
 恐や赤しやまだ七つ
 恐や赤しやまだ七つ

※ゴンシャン：良家の娘

ところで、ヒガンバナを町おこしに利用している例も有ります。福島県霊山町石田地区のヒガンバナまつりは、2024 年 9 月 22 日 (日) に開催されます。イベントは午前 9 時 30 分から午後 5 時ごろまで行われ、ライトアップは 9 月 21 日 (土) から 23 日 (月・祝) まで予定されています。

